

図書館だより



No.198



2016(平成28)年1月8日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218

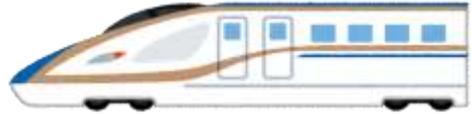
Fax 024-536-4787

<https://www.library.fks.ed.jp/>



◆展示のお知らせ◆ 展示コーナー

「鉄道の歴史」1月8日(金)～2月16日(火)



平成28年3月26日にいよいよ北海道新幹線が開業します。これを祝して鉄道の歴史や新幹線の歴史をたどるとともに、最近人気のイベント列車や全国の駅弁など、鉄道をより楽しむための資料を紹介します。

「東日本大震災5年展 ～あのとき そして これから～」2月27日(土)～4月6日(水)

平成28年3月に東日本大震災から5年目を迎えます。震災を振り返り伝え続けるために、震災記録のパネルや、当館で収集している「東日本大震災福島県復興ライブラリー」所蔵の記録集等を展示します。



イベントのお知らせ

講座「亜細亜と欧州を結ぶ

～須賀川の銅版画家 あおうどうぜん 亜欧堂田善 が見た世界～

(ふくしまを知る連続講座⑥)

講師：坂本篤史さん(福島県立美術館副主任学芸員)

日時：1月24日(日)14時～15時30分

場所：3階 第一研修室(入場無料・申込不要)

精密な銅版画を日本で初めて完成させた須賀川出身の画家・亜欧堂田善について、その画業や交友関係を中心に探っていきます。



赤ちゃんと保護者のための

“ちいさなおはなしかい”

①1月14日(木)②2月11日(木・祝)

10時30分～11時

場所：こどものへや(入場無料・申込不要)



各種展示 1月8日(金)～2月16日(火)

《時事展示》

- ・BOOKS FOR YOUTH

～イマしかみられないものを～

《ミニ展示》

- ・雪山の風景【センターホール】

- ・須賀川の銅版画家 亜欧堂田善【イトリホール】

- ・ふくしまの鉄道今昔【展示コーナー前】

- ・第154回芥川龍之介賞候補作品【調査相談カウンター付近】

- ・寒さをたのしむ 冬をのりきる【軽読書コーナー】

下記展示は期間が異なります。

- ・冬、雪に関する絵本【こどものへや・絵本コーナー】

※1月8日(金)～2月3日(水)

※2月5日(金)～3月2日(水)



ロビー展示コーナー

- ・くらしに花を ～アーティフィシャルフラワーの魅力～ 1月8日(金)～2月16日(火)

- ・翡翠(カワセミ) 2月27日(土)～4月6日(水)

◆図書特別整理のための休館のお知らせ◆

2月17日(水)～2月26日(金) この間休館します

* 休館日は当館ホームページや日限票でも確認できます。



新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『TRUK LAGOON トラック諸島閉じ込められた記憶』
古見 きゆう／写真・文 講談社 2015.7 748/7¥157

トラック諸島——かつて日本海軍連合艦隊の拠点があったその地は、太平洋戦争末期、アメリカ軍による空襲で壊滅的な被害を受けます。軍用艦の多くは既に脱出していましたが、遅れた徴用商船などはほとんどが撃沈し、今もなお遠いチュークの海の底に沈んでいます。本書は、「全ての沈船に潜り記録しよう」という作者の強い意志のもと撮影された9年間の集大成です。70年という歳月を経て崩壊が進む艦船に潜ることは多くの危険を伴うため、まさに「生命をかけた記録」となっています。

『<小さい交通>が都市を変える～マルチ・モビリティ・シティをめざして～』大野秀敏ほか／著
NTT出版 2015.9 681.8/¥159

超高齢化社会時代を迎える日本。今までの「遠く、早く、大量」を目指す<大きい流れ>ばかりが尊重される交通システムへの警鐘を鳴らし、過疎地域の人びとや、自家用車を持つことのできない貧困層及び足の不自由な高齢者たちが、<小さい交通>を選択できる社会を目指すべきだと主張しているのがこの本です。誰にでも使いやすい電動車椅子、団地で活躍する自転車タクシー等々、すでに実現・運用している現場を紹介し、弱者を置き去りにしない「マルチ・モビリティ・シティ」を目指すには何が必要かを考えます。

『私たち非正規保育者です 東京の公立保育園非正規職員調査から見えてきたもの』垣内 国光／監修
かもがわ出版 2015.8 376.14/¥158

保育の現場でも、非正規の職員が増加傾向にあるといわれています。しかし、その権利は守られているとはいえない状況です。保育者自身が心身共に健康であること抜きには、子どもたちにしっかりと向き合うことはできません。充実した保育環境を作るには、そこで働く労働者の権利を守る事が重要です。今後ますます増えてくるとされる非正規労働者の問題や、増設が望まれる保育施設のあり方について等、様々な問題に気付かせてくれます。

児童・児童図書研究

『100万回生きたねこ』の作者として子どもから大人まで親しまれている佐野洋子さんにかかわる本が続けて出版されました。

『ヨーコさんの“言葉”』佐野洋子/文 北村裕花/絵
講談社 2015.8 J914.6/¥

テレビで放映された同名番組が書籍化されました。独自の価値観による人間観察が、母として、人として語られたエッセイ絵本です。

『100万分の1回のねこ』講談社 2015.7 J913.68/¥
絵本『100万回生きたねこ』の100万回のうちの1回を、江國香織、くどうなおこ、谷川俊太郎、広瀬弦、綿矢りさなど、ジャンルも世代も異なる作家が描いた短編集です。原作と一緒に楽しみください。

雑誌・新聞

2015年の終わりに、漫画家・水木しげるさん(代表作『ゲゲゲの鬼太郎』)、作家・歌手・政治家など、多方面で活躍した野坂昭如さん(のさか・あきゆき、代表作『火垂るの墓』)が相次いで他界し、新聞各紙が1面で報じました。関連の記事をご紹介します。

*水木しげるさん逝去(11月30日、享年93)

全国紙・民報・民友 2015年12月1日各1面

*評伝水木しげるさん 楽しい妖怪愛した人生

朝日新聞 2015年12月1日 39面

*ゲゲゲの追悼特集 水木しげる

知られざる「93年の妖怪人生」

『サンデー毎日』2015年12月20日号 Z051/S18

*新発見 水木しげるの出征前手記

『新潮』2015年8月号 Z/905/S1

*野坂昭如さん逝去(12月9日、享年85)

朝日・読売・毎日新聞 2015年12月10日各1面

*「火垂るの墓」直木賞野坂昭如さん死去 毒と

ユーモアの反骨漢 過酷な戦争体験 創作の原点

産経新聞 2015年12月11日 31面

*二度と戦争をしないことが死者への礼儀だ

野坂昭如／著

『サンデー毎日』2015年8月23日号 Z/051/S18

地域

『白河天体観測所 日本中に星の美しさを伝えた、藤井旭と星仲間たちの天文台』藤井旭／著
誠文堂新光社 2015.10 L442.1/F1/1

白河天体観測所は1944年に設立、2014年に閉鎖されるまで、日本を代表する天文台として活躍してきました。著名な天体写真家であり、創立メンバーの一人である著者が、ユーモア溢れる筆致で観測所の思い出を綴ります。チロ天文台長のことや、メンバーの珍騒動、天体観測を通じた人々の絆。追憶のひとつひとつが星々の輝きのように感じられます。随所に掲載されている美しい天体写真も必見。

『ト伝(ぼくでん)飄々』風野真知雄／著

文藝春秋 2015.8 LA913.6/A4/60

人気時代小説「耳袋秘帖」や「妻は、くノ一」など文庫書き下ろしが多い著者の久しぶりの単行本。戦国時代の剣豪・塚原ト伝が、刀を使わずに勝とうとする「無手勝流」に目覚めるまでを描いています。

新たな秘剣を生み出そうと努力したり、月を斬ってみたいと稽古に励んでみたりと、「老い」を感じつつも飄々と理想を目指して、秘かにあがきつづけるト伝の姿は現代にも通じるものを感じます。

ラストの物語は、刀の代わりに鍋の蓋を一つ持って80歳を過ぎて4度目の旅立ち、故郷では風変わりな困り者だったようです。